

会報

太陽の会

新年の御挨拶

新しい年を迎えて、会員の皆様のご多幸を心からお祈り申します。お陰様で、当会の外装工事も昨年で無事完了となり、今まで以上に快適に利用していただける環境となりました。

日本の長い伝統をみると、お盆とお正月は、魂祭り・死者の霊魂をまつる行事でした。先祖の霊と自分とが一緒になって過ごす時期がお盆とお正月でした。それがいつの間にかお盆は、仏様、正月は神様というように分離していきました。新年を迎えるのに、仏様へのご挨拶は、日本人の習慣としてとても大切なものなのです。

「道徳はいくつになるぞ。道徳、念仏申さるべし」これは、蓮如上人の弟子道徳が、新年の挨拶の際に蓮如上人から掛けられたお言葉です。数え年で新年を迎えて何歳

になったのかという質問の後、道徳に自力の念仏を戒め、他力の念仏を説かれました。自力の念仏とは、念仏を数多く称えて、その功德によつて救つてくださるように念じる。他力の念仏とは、阿弥陀仏にお任せする思いが起る時、ただちにお救いにあずかる。その後、称える念仏は、お救いいただいたことを有り難いと喜び称える念仏になる。そして、その思いを持続させるようにと説かれました。この新しい年も感謝の念仏と共に過ごして行きたいですね。

本年もスタッフ一同、皆様の心の拠り所となるような場所が提供できるよう一丸となつて、取り組んでいきますのでどうぞよろしくお願い致します。



謹賀新年

「俱会一処」

ご家族との別れがあつた家庭では、心にぽっかり穴があいたような気持ちで新年を迎えられたのではないでしょうか。自分の心が落ちているときは、世間が明るい時ほど自分の心との明暗の差をはつきりと感じてしまいます。しかし、その悲しみは誰しもが味わうことになる悲しみで、決して一人だけが抱えているものではありません。会者定離は、この世の常(世の中のこと)はすべて変わりやすく、会う者はかならず別れる運命にあるということなのです。

『阿弥陀経』に、「舍利弗(釈迦の十大弟子の一人)、衆生聞かんもの、まさに発願してかの国に生ぜんと願うべし。所依はいかに。かくのごときの諸上善人とともに一処に会することを得たればなり。舍利弗、少善根福德の因縁をもつてかの国に生ずることを得べからず。」念仏の信仰に生きれば、この世の臨終を迎えた時ただちに浄土に往生することができるとあります。

ご先祖や、先立ちし人の待つお浄土に生まれることができると思つと、普段の生活

の励みになります。今生での別れは、とても辛いものです。しかし、これもしばしの別れお念仏の生活に身を置き感謝して生きること、心の穴も次第にふさがっていくでしょう。

「俱会一処」とお墓に刻まれているのを良く目にします。生きている人が、お念仏の生活をおくらせてもらおうという決意が込められているように感じることもあります。「また、会えるその日まで精一杯頑張ります。お浄土で待つていてくださいね。」と。



合掌

仏教由来の言葉「挨拶」

おはよう・こんにちは・おやすみなさい・さようなら、朝から晩まで人と言葉を交わすきっかけになる習慣、これを挨拶といえます。挨拶は、心を開きかけになり人と人のふれあいの潤滑油の様な役割をしています。

挨拶の語源は、禅僧の間で師匠が弟子との押し問答で、その者の修行や、悟りの深さを試すために用いられていました。最近、人と人の付き合いが希薄になってきたと思う多くは、挨拶の欠如からくるものかもしれません。

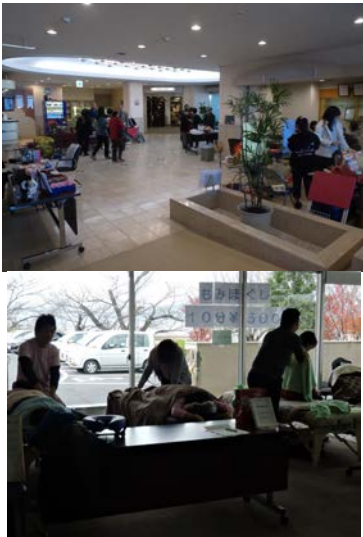


大感謝祭 太陽の塔 桜ヶ丘

去年の暮十二月十九日(土)、二十日(日)に太陽の塔 桜ヶ丘で大感謝祭が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、多くの参加者を迎えることができました。出店したのは、焼きそばやクレープなどの多くの飲食関係の屋台や日頃の疲れを癒して頂くマッサージやカイロプラクティック、館内には、無料の写真撮影会にエンディングノート普及協会代表理事を務められる赤川なおみ氏による終活セミナー・相談会が開かれました。終活と聞いてマイナスなイメージを持っていた方も先生の実体験に基づく話をお聞きして終活に必要な情報を知ることができ、元気な今だからこそよく考えておく必要があると実感させられました。今からできる事柄について学べ、参加された方の善きアドバイスになったようです。

この二日間は、地域の皆様とのより良い関係が築けることができ、既契約者様にも大変喜んでいただけるものになりました。



おせち料理

お正月にご家族、親族とお正月を迎え「おせち」をいただいた方も多いのではないのでしょうか。おせちは、「御節供(おせちく、おせつく)」や「節会(せちえ)」の略であり、中国から伝わった五節供の行事に由来します。奈良時代には、朝廷内で節会(せちえ)として行われ、そこで供される供御を節供(せちく)と言ました。現在のような料理ではなく、高盛りになったご飯などであったとされます。おせち料理の由緒についてお話しさせていただきます。

▽黒豆：黒豆を甘く煮たもの。黒は道教において邪除けの色とされている。黒く日焼けするほど達者ママに働けるようにと邪気を払い長寿と健康・無病息災を願ったものです。

▽田作り：イワシの幼魚の佃煮。カタクチイワシを田の肥料としたところ五万俵もの米が収穫できたことに由来しています。

▽伊達巻：伊達政宗の派手好きに由来して伊達は、華やかさや派手さを表します。卵焼きやだし巻を変わりに使われることもあります。巻物に似た形から文化・学問・教養を持つことを願います。

▽クワイ：福山市で全国の8割を生産しています。最初に大きな芽が一本出るところから「めでたい」にかけてのもので、出世を祈願したものです。

▽蓮根：穴が多数ある蓮根は将来の見通しがきくという意味の縁起かつぎです。沼地の泥の中で育ちきれいな花をつけるので、物事を成就させるといいう意味もあります。



平成28年度祭祀年間予定表

○ご正忌報恩講合同供養祭及び勉強会

開催日 1月30日(土)

○合同供養祭及び勉強会

開催日 2月27日(土)

○春季彼岸会 合同供養祭

開催日 3月17日(木)

○花祭り(お釈迦様誕生日をお祝いする

行事 開催日 4月9日(土)

○親鸞聖人降誕会法要及び合同供養祭

開催日 5月21日(土)

○合同供養祭及び勉強会

開催日 6月18日(土)

○孟欄盆会

開催日 7月15日

○孟欄盆会

開催日 8月15日

○秋季彼岸会 合同供養祭

開催日 9月24日

○合同供養祭及び勉強会

開催日 10月15日

○合同供養祭及び勉強会

開催日 11月19日(土)

